



BOJ *Reports & Research Papers*

日本銀行大分支店 特別調査レポート

大分県の輸出構造と最近の動き

2019年11月1日
日本銀行大分支店

本稿は、林眞子が作成しました。

内容に関する照会は、日本銀行大分支店総務課（TEL：097-533-9106 FAX：097-538-7085）までお寄せください。

本稿はインターネット（<http://www3.boj.or.jp/oita/>）からもご覧いただけます。

本稿の内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め日本銀行大分支店までご相談ください。

転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。

はじめに

大分県の輸出は、2017年以降、海外経済の成長もあって増加傾向にあった。もっとも、このところ前年を下回って推移している。

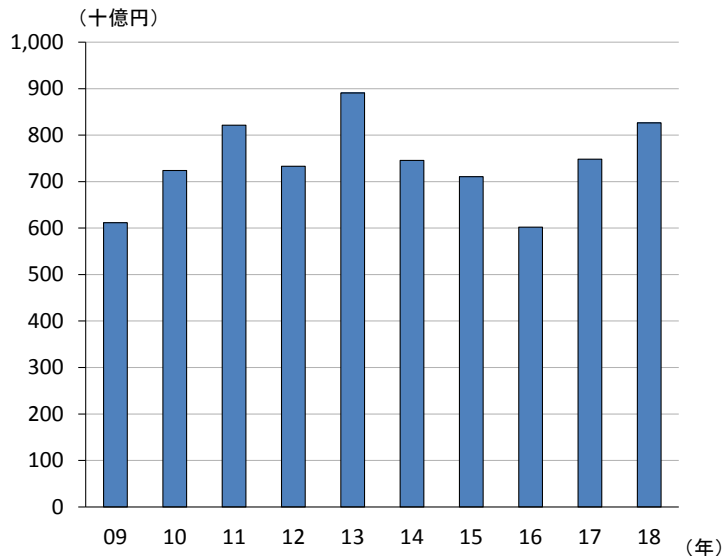
本レポートでは、「貿易統計」に基づき、当県の輸出の特徴点と最近の動きをまとめた。そのうえで、米中貿易摩擦等を背景とする海外経済減速が当県の生産活動に与える影響や先行きの展望について整理した。

1. 大分県の輸出の現状と特徴

輸出額の推移

- 大分県の名目輸出額は、世界経済減速等の影響を受けた2015年・2016年を底に、2017年以降は増加傾向にあった。
- もっとも、2018年12月の前年比マイナス転化以降、振れを伴いつつも前年を下回って推移している。全国の動きも同様となっている。

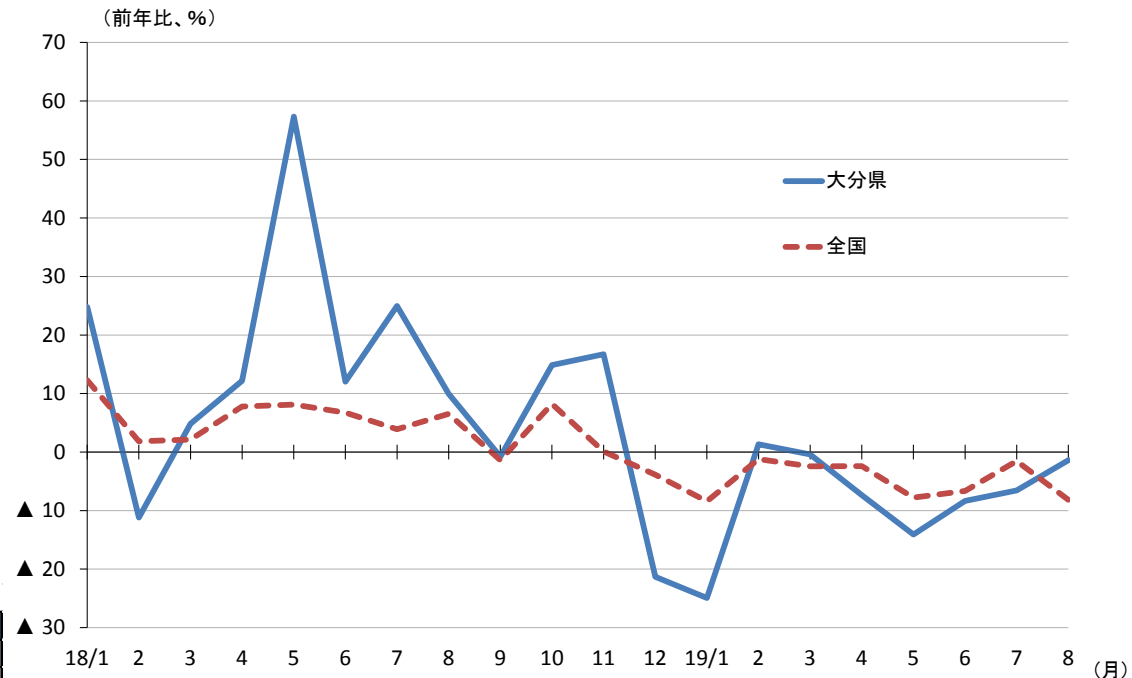
(図表1) 大分県の名目輸出額推移



〈参考〉世界経済の成長率見通し

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
世界全体	3.6	3.5	3.4	3.8	3.6	3.0
先進国・地域	2.1	2.3	1.7	2.5	2.3	1.7
新興国・地域	4.7	4.3	4.6	4.8	4.5	3.9

(図表2) 名目輸出額の前年比推移(全国との比較)

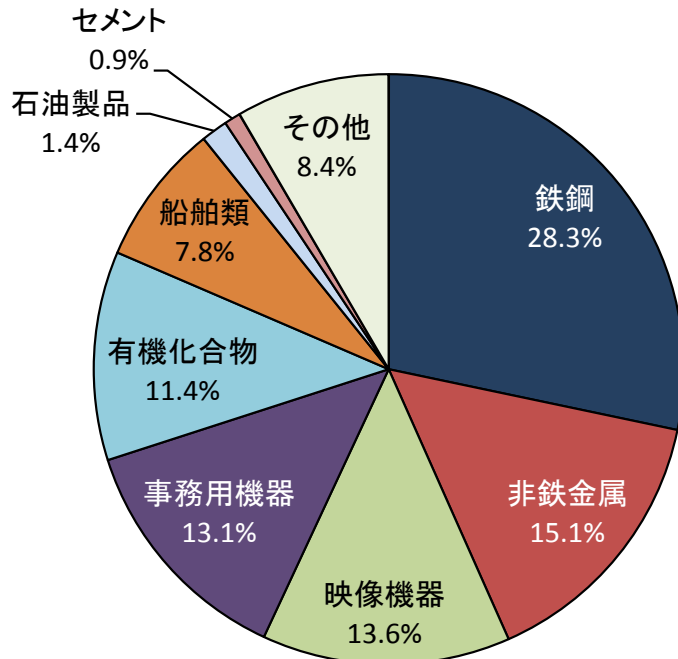


(資料) 財務省「貿易統計」、IMF「世界経済見通し(2019年10月)」

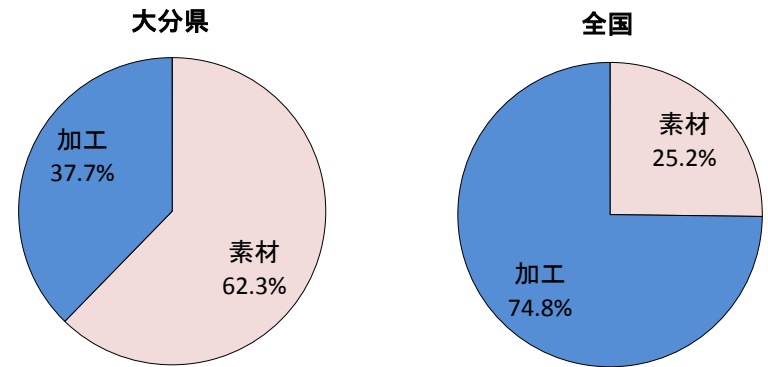
大分県の輸出の特徴①

- 当県の名目輸出額の品目別構成比率をみると、鉄鋼、非鉄金属が特に高く、次いで映像機器、事務用機器、有機化合物が主な輸出品目となっている。
- また、全体を素材製品と加工製品に分けてみると、全国に比べ素材製品のウェイトが高いことが特徴。

(図表3)大分県の主な輸出品目とその比率(2018年)



(図表4)輸出に占める素材・加工製品の比率(2018年)



〈参考〉素材・加工製品の産業例

素材製品	加工製品
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄鋼業 ・非鉄金属工業(銅製品など) ・化学工業 ・石油製品工業 ・窯業・土石製品工業(セメントなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品・デバイス工業(半導体など) ・電気・情報通信機械工業(映像機器など) ・輸送機械工業(自動車、船舶など) ・はん用・生産用・業務用機械工業(事務用機器など)

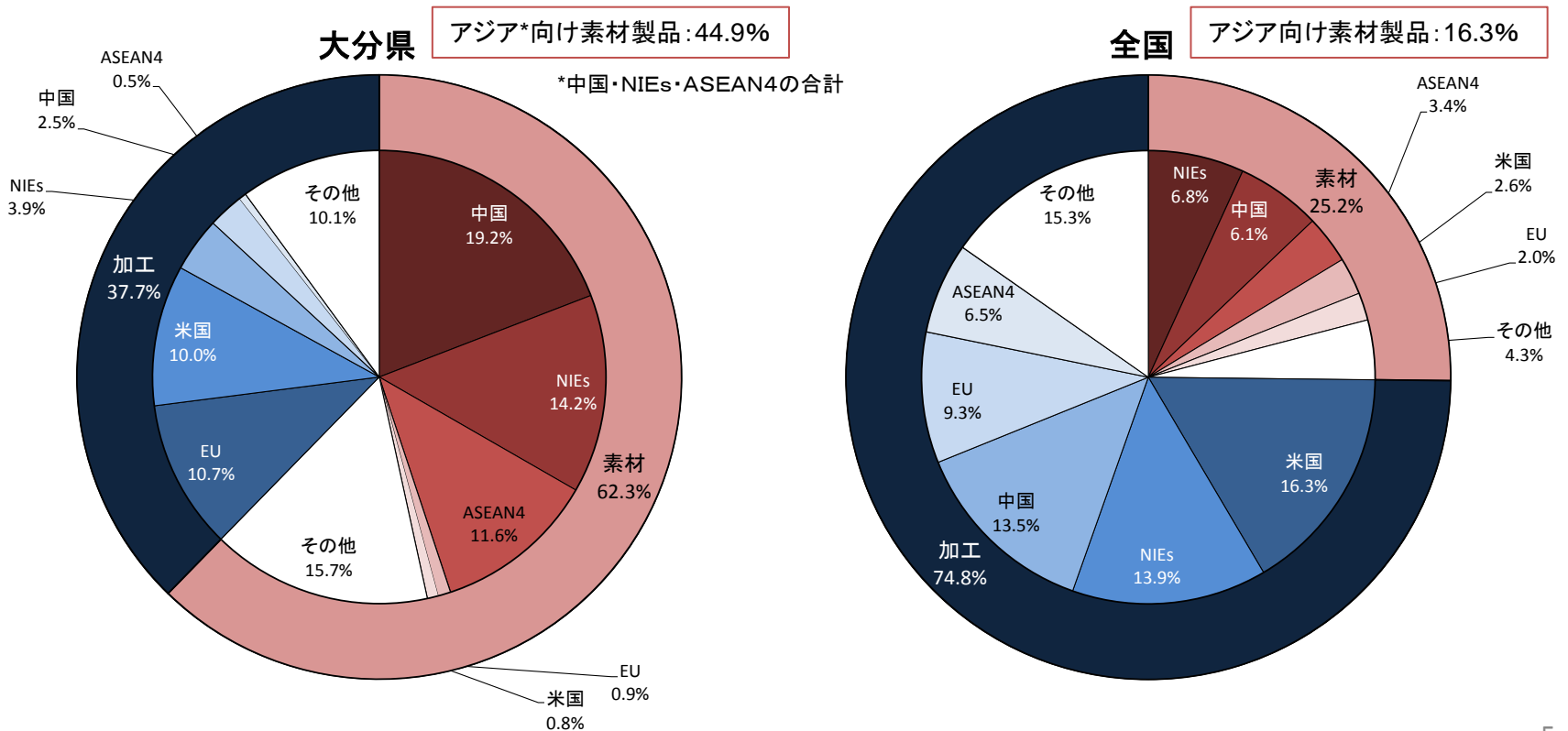
(注)素材・加工製品の比率の算出に際しては、「貿易統計」の概況品目「原材料」・「鉱物性燃料」・「動植物性油脂」・「化学製品」・「原料別製品」を素材製品、「食料品及び動物」・「飲料及びたばこ」・「機械類及び輸送用機器」・「雑製品」・「特殊取扱品」を加工製品として振り分けた。

(資料)財務省「貿易統計」

大分県の輸出の特徴②

➤ 素材・加工製品に分けたうえで、各々の輸出先比率をみると、当県の輸出は全国と比べ「アジア向け素材製品」の割合が高いことが特徴。したがって、こうした製品の動向が、当県の輸出動向をみるうえでのポイントとなる。

(図表5) 素材・加工製品別の輸出先比率(2018年)



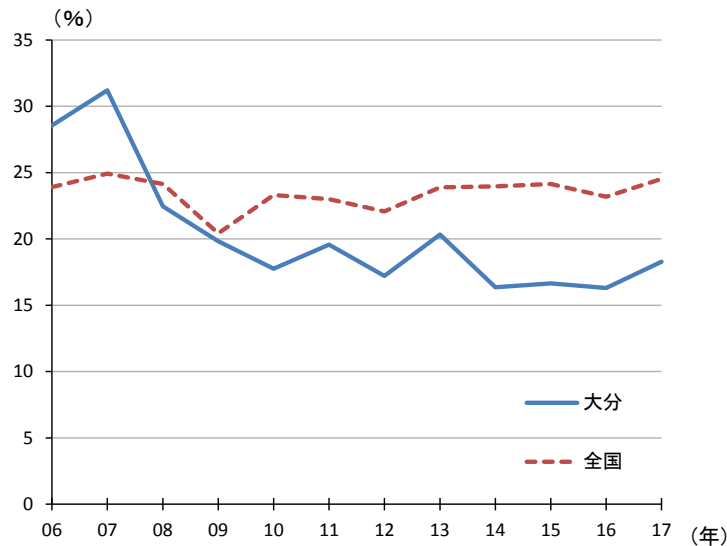
(注) NIEsは大韓民国・台湾・香港・シンガポール、ASEAN4はタイ・マレーシア・フィリピン・インドネシアの合計。

(資料) 財務省「貿易統計」

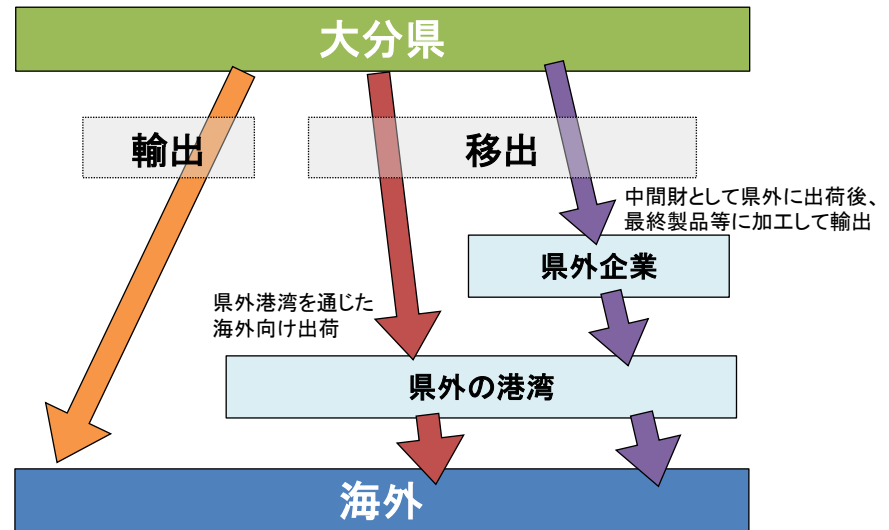
当県の生産活動と外需のつながり

- 当県の輸出依存度（名目輸出額／製造品出荷額）の推移をみると、2006年時点に比べ低下しており、かつ全国に比べて低いことがわかる。この点で当県の生産活動は、外需の変動による直接的な影響を比較的受けにくい産業構造とも言える。
- ただし、県内企業の一部製品では、県外へ出荷（移出）した後に輸出されるといった間接的な形での輸出が行われており、こうしたルートでも海外経済の影響が県内に波及しうる点には注意が必要。

（図表6）輸出依存度の推移



（図表7）当県で生産された製品の海外向け出荷経路

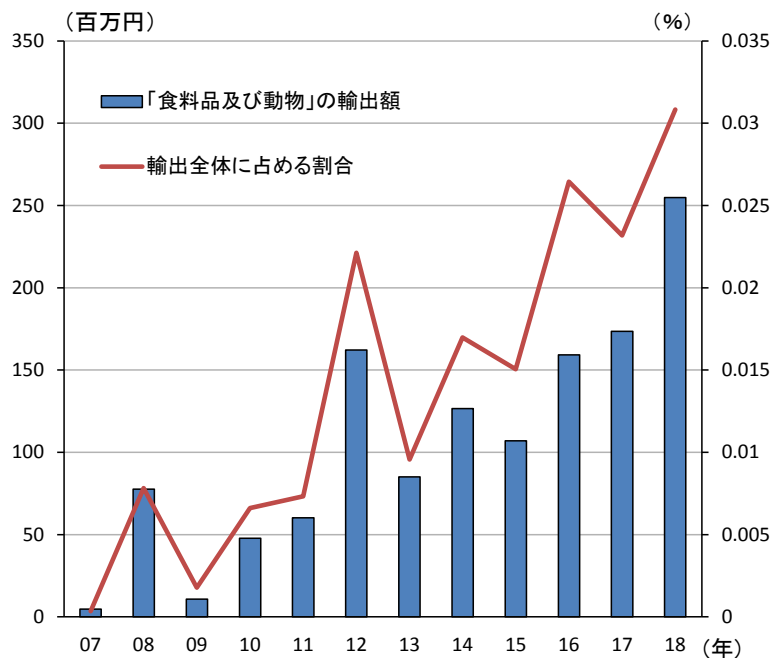


（資料）財務省「貿易統計」、経済産業省「工業統計調査」、「経済センサス」

【BOX】増加する食料品・農林水産物の輸出

当県の輸出全体に占める食料品の割合は、0.1%未満と低いものの、増加傾向にある。また、食料品や飲料、その他農林水産物を扱う地場企業には、海外向けの販路拡大に注力する動きもみられている。出荷額に占める割合としてはまだ小さいが、日欧EPAなど貿易自由化の後押しも受けながら、こうした外需の取り込みが当地経済の活性化につながっていく可能性がある。

(図表8) 名目輸出額に占める食料品の割合(大分県) (図表9) 地場企業の声



(資料) 財務省「貿易統計」

業種	コメント
A社 (食料品)	これまで事業リスクの高さから積極的な海外事業展開を行っていなかった。しかし国内市場が衰退しつつある中、外国人や海外に目を向ける必要性を認識し、ハラル認証商品の販売や海外販売子会社の設立を行った。
B社 (飲料)	国内市場が縮小する中、海外営業に力を入れている。売上に占める輸出の割合はまだ小さいが、今後の成長分野として期待している。
C社 (食料品)	海外での健康志向の高まりを背景に、当社製品への引き合いが強まっている。海外企業が工場視察にも来ている。
D社 (木材)	米中貿易摩擦を背景に、中国からの輸入品に高い関税が課されることを懸念した米国のバイヤーから受注があった。これをきっかけに米国向けの取引が拡大する可能性がある。

2. 最近の動き

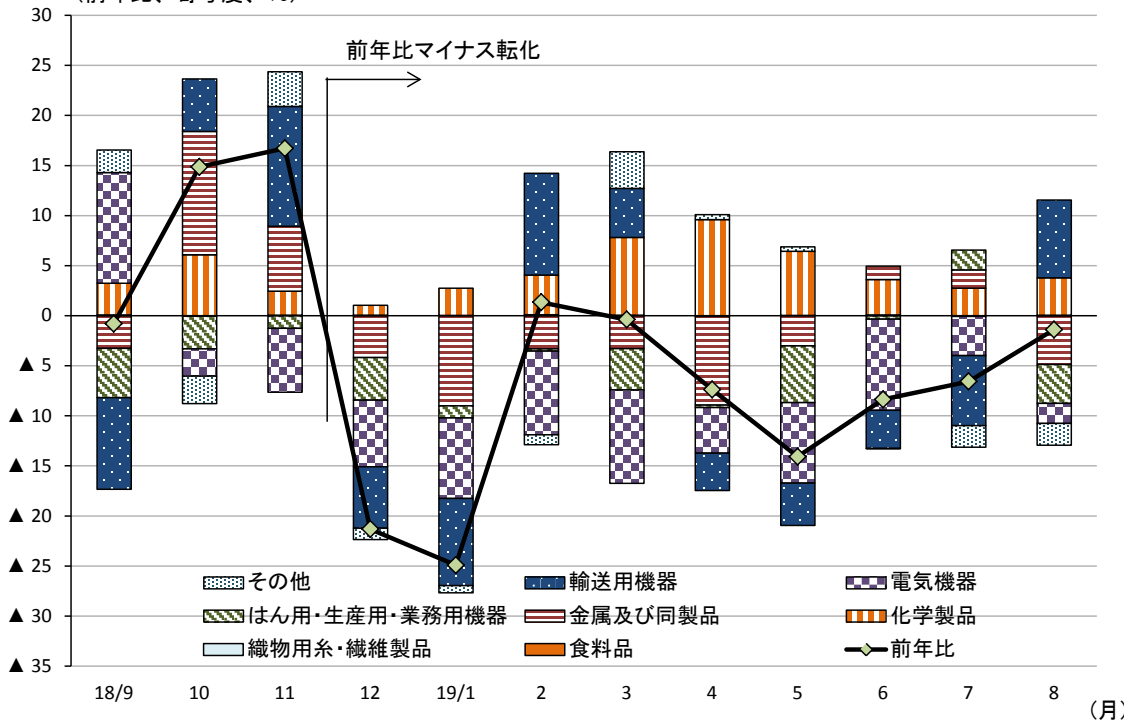
～2018 年12月以降の輸出動向～

2018年12月からの変化①

- 大分県の名目輸出額をみると、2018年12月以降、振れを伴いつつも前年を下回って推移している。品目の分類別寄与度でみると、電気機器や金属及び同製品が主な減少要因となっている一方、化学製品については好調に推移している。

(図表10) 名目輸出額の前年比推移(品目の分類別寄与度)

(前年比、寄与度、%)



(図表11) 県内企業の声

製品	コメント
E社 (電気機器)	最終製品の市場が縮小する中、2018年末から中国向け需要を中心に落ち込んでいる。
F社 (金属及び同製品)	中国の景気減速を背景とする需給の緩みにより、アジア向け輸出が弱含んでいる。
G社 (化学製品)	品質の高さ等を背景に、中国向けの化学製品の輸出が好調。需要減は特段みられていない。
H社 (化学製品)	中国政府の環境規制等の影響からグローバルに需給がひっ迫している化学製品では、生産能力の上限に近い水準の高稼働が続いている。

(注) 品目の分類は、「貿易統計」の分類を参考に、当地の輸出品目を8つのグループに分けたもの。金属及び同製品は「貿易統計」の概況品目「鉄鋼」・「非鉄金属」・「金属製品」、はん用・生産用・業務用機器は「一般機械」・「科学光学機器」の合計。

(資料) 財務省「貿易統計」

2018年12月からの変化②

- 素材・加工製品別の2018年12月以降の変化を全国と比較すると、素材製品について全国では前年同期比で減少しているのに対し、当県では増加しており、全国に比べて好調に推移していることが窺える。
- 加工製品については、全国同様、中国向けを中心に大きく落ち込んでおり、減少率は全国を上回っている。もっとも、輸出全体に占める加工製品のウェイトが低いため、県内の経済全体でみた影響はさほど大きくないと言える。

(図表12)2018年12月～2019年8月の前年同期比

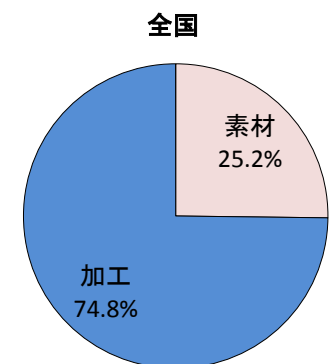
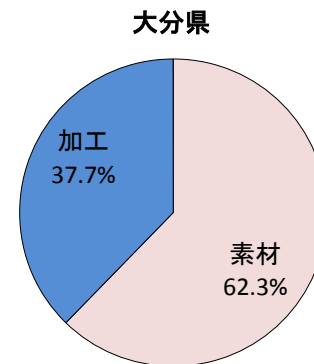
大分県

	前年同期比(%)
素材	1.4
米国	▲ 49.6
中国	0.2
NIEs	1.1
ASEAN4	▲ 21.1
EU	8.8
その他	21.5
加工	▲ 27.1
米国	▲ 19.1
中国	▲ 78.6
NIEs	▲ 57.4
ASEAN4	240.6
EU	▲ 32.0
その他	▲ 11.3

全国

	前年同期比(%)
素材	▲ 2.6
米国	7.9
中国	▲ 4.9
NIEs	▲ 7.5
ASEAN4	▲ 6.5
EU	▲ 1.9
その他	4.5
加工	▲ 5.3
米国	3.4
中国	▲ 10.2
NIEs	▲ 8.7
ASEAN4	▲ 5.1
EU	▲ 0.0
その他	▲ 10.1

〈参考〉輸出に占める素材・加工製品の比率(2018年)(再掲)

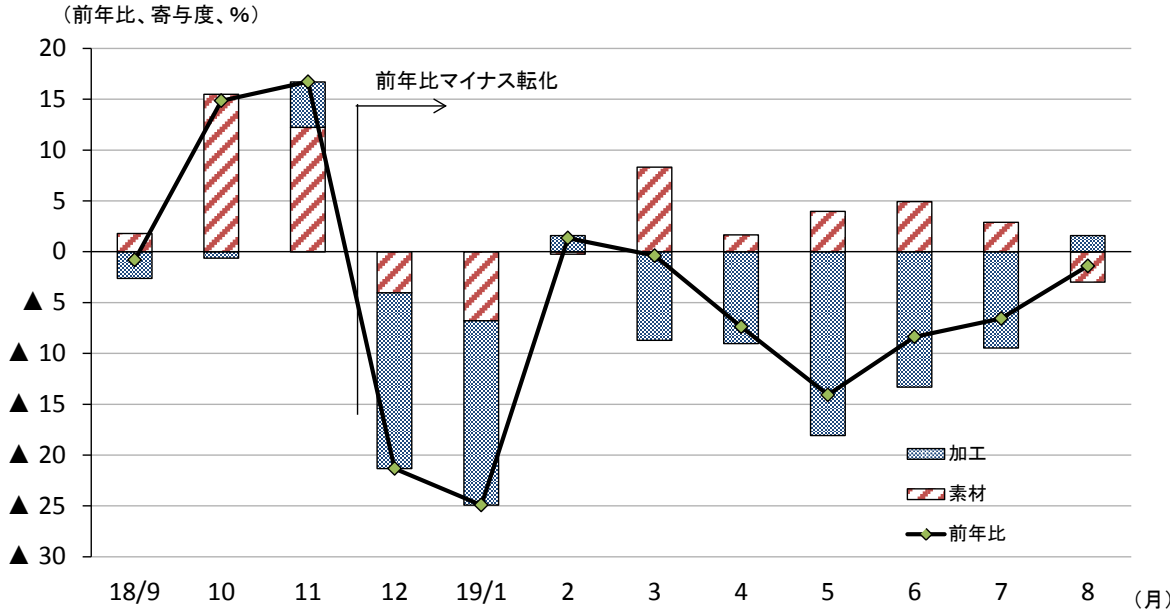


(資料)財務省「貿易統計」

2018年12月からの変化③

- 当県の名目輸出額の動きについて、素材・加工製品別の寄与度分解を行うと、マイナス転化した2018年12月以降、加工製品を主因に前年を下回っている。一方、素材製品では、県内の生産設備のコスト競争力の高さ等を背景に、堅調基調で推移している。
- なお、2019年後半に入り、加工製品の減少幅は徐々に縮小している。

(図表13) 名目輸出額の前年比推移(素材・加工製品別寄与度)



(図表14) 県内企業の声

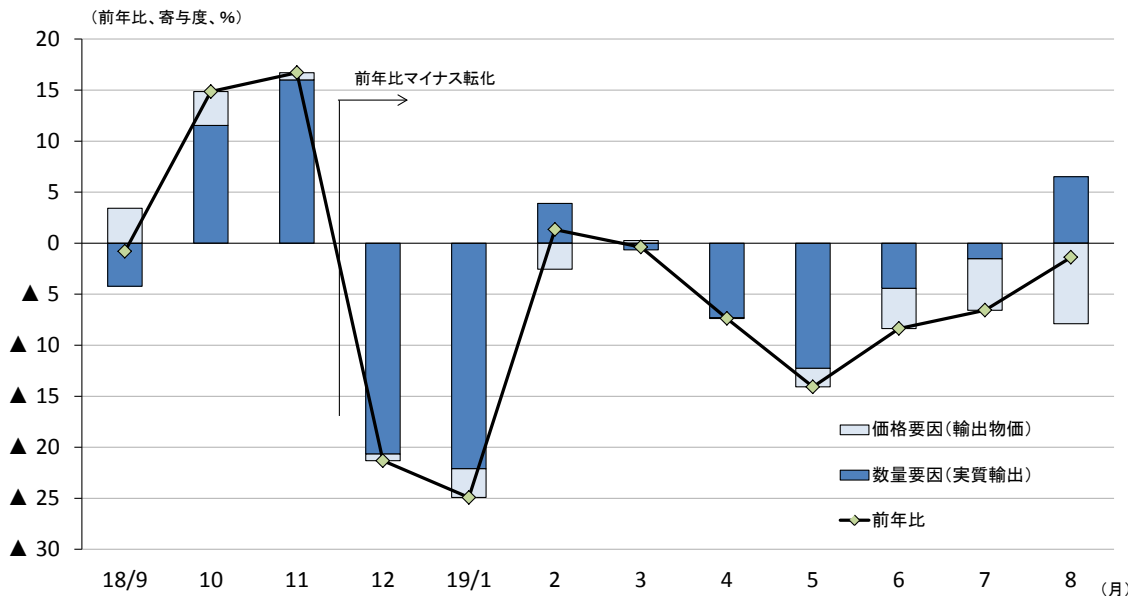
製品	コメント
I社 (金属及び同製品)	コスト競争力は世界でもトップレベルであり、多少市況が悪化したとしても、今後も高稼働率を維持する見込み。
J社 (金属及び同製品)	全国の生産拠点の中でも生産効率が高いため、輸出先のバランスを変えること等によって高稼働率を保っている。
K社 (化学製品)	全国の中でも比較的新しい拠点で、生産性が高い。アジア地域への近接性や九州内に競合先がない点など、地理的優位性も高い。

(資料)財務省「貿易統計」

2018年12月からの変化④

- 名目輸出額の変化を「価格要因」と「数量要因」の寄与度に分解すると、2019年5月までは主に数量要因で減少しているものの、その後は価格要因が大きくなっていることがわかる。直近の価格面の下押し圧力について、今後の動向を注視していく必要がある。

(図表15) 名目輸出額の前年比推移(数量・価格要因別寄与度)



(資料)財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数(2015年基準)」

※実質輸出は、日本銀行が全国ベースで公表している実質輸出の作成方法に準拠して本店で作成。すなわち、「貿易統計」の分類を参考に、当地の輸出品目を8つのグループに分けたうえで、各グループの実質輸出額を足し上げ、2015年平均を100として指数化した。

〈参考〉実質輸出の算出における輸出品目グループとデフレーターとの対応関係

分類	デフレーターとして対応させている物価指数
食料品	消費税を除く国内企業物価指数・類別「飲食料品」
織物用糸・繊維製品	輸出物価指数・類別「繊維品」・円ベース
化学製品	輸出物価指数・類別「化学製品」・円ベース
金属及び同製品 (鉄鋼、非鉄金属、金属製品)	輸出物価指数・類別「金属・同製品」・円ベース
はん用・生産用・業務用機器 (一般機械、科学光学機器)	輸出物価指数・類別「はん用・生産用・業務用機器」・円ベース
電気機器	輸出物価指数・類別「電気・電子機器」・円ベース
輸送用機器	輸出物価指数・類別「輸送用機器」・円ベース
その他 (上記分類以外)	輸出物価指数・類別「その他産品・製品」・円ベース

「貿易統計」では把握できない動き

- 以上では「貿易統計」からみた輸出動向を追ってきたが、これによって把握できない動きにも注意が必要である。半導体や自動車部品は当県の港湾から殆ど輸出されていないが、海外需要減少を背景とした「県外企業・港湾を通じた間接的な輸出の減少」や「国内企業の設備投資抑制」による影響が県内の関連業種の一部から聞かれている。
- これらの影響を定量的に把握することは難しいが、当県の生産活動はこうした間接的な海外経済減速の影響も受けていると言える。

(図表16) 県内企業の声

業種	コメント
L社 (半導体)	中国経済の減速によって、国内商社に出荷している中国向けの半導体需要が弱含んでおり、低めの稼働率が続いている。
M社 (自動車部品)	納入先の国内完成車メーカーの海外販売不振の影響を受け、受注が落ち込んでいる。
N社 (半導体製造装置)	世界的なスマホ向け半導体の需要減等により、半導体メーカーが設備投資を手控えたことから、受注が弱含んでいる。

〈参考〉大分県の名目輸出額に占める各品目の割合(2018年)

半導体等電子部品	0.003%
自動車の部分品	0.015%
半導体等製造装置	0%

(資料)財務省「貿易統計」

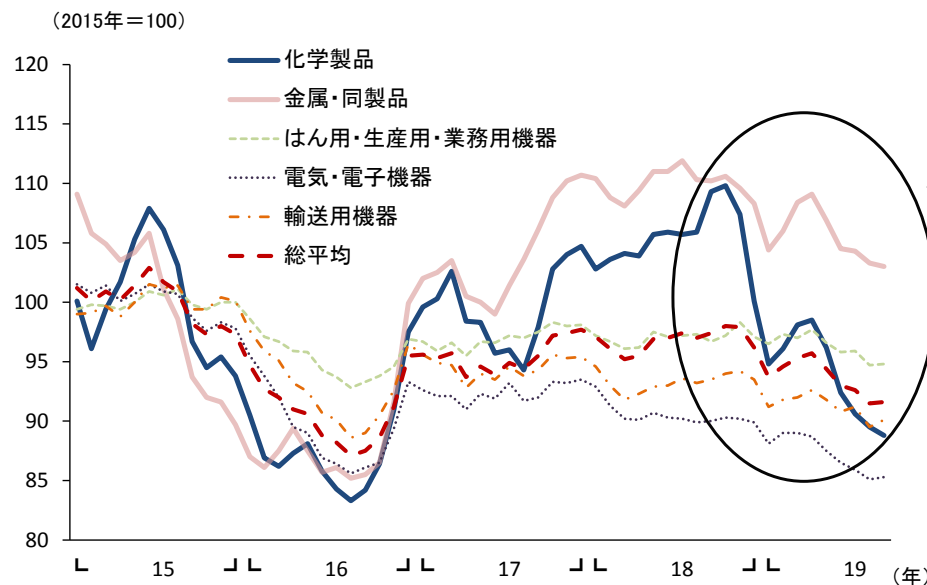
3. 先行きの展望

～輸出動向をふまえた大分県の生産活動の今後～

現状評価と先行きのリスク①

- 大分県の生産活動は、加工業種を中心に海外経済減速の影響を受けているが、輸出に占めるウェイトの高い素材業種が堅調に推移しているため、全体としてみれば影響は一部にとどまっていると言える。
- 先行き、中国経済の減速による商品市況の悪化など、価格面の下押し圧力に注意する必要。全国の輸出物価の動きをみると、これまで高水準にあった化学製品や金属・同製品の低下傾向が目立っており、こうした製品の輸出に占めるウェイトが高い当県への影響は、全国に比べ大きくなる可能性。

(図表17) 主な輸出品目の輸出物価指数推移



〈2018年10月から2019年9月の変化率〉

	変化率(%)
総平均	▲ 6.5
化学製品	▲ 19.1
金属・同製品	▲ 6.9
はん用・生産用・業務用機器	▲ 2.5
電機・電子機器	▲ 5.5
輸送用機器	▲ 4.1

(注1) 2018年10月は総平均の直近ピーク。

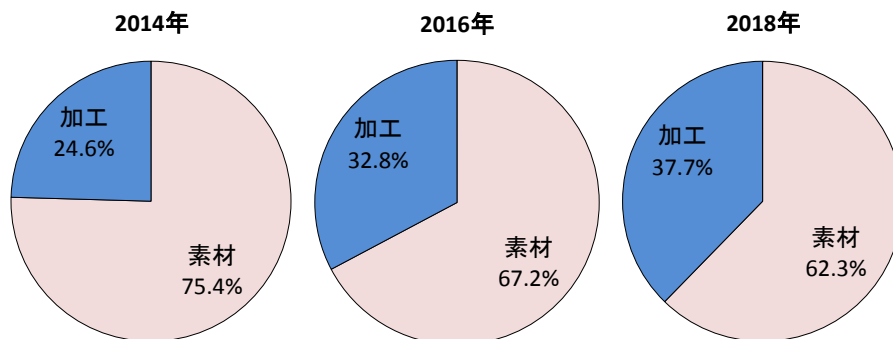
(注2) 物価指数の2019年9月は速報値。

(資料) 日本銀行「企業物価指数(2015年基準)」

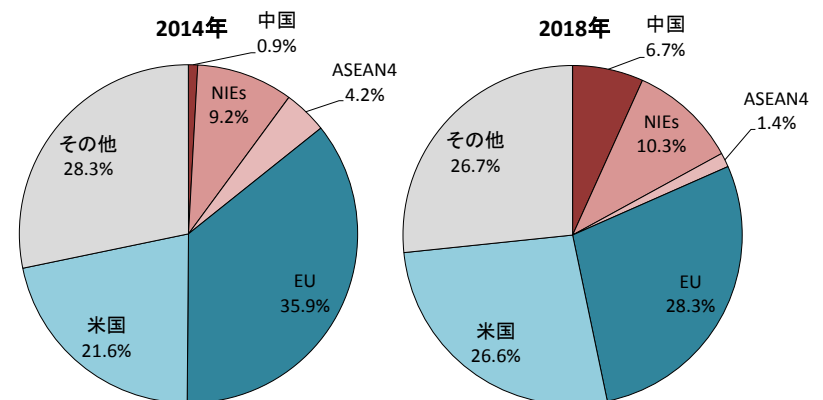
現状評価と先行きのリスク②

- 加工業種の更なる悪化・回復の遅れにも注意が必要。当県の輸出では素材製品のウェイトが高いものの、加工製品のウェイトが近年拡大。特に加工製品における中国向けの割合はこのところ増加しており、中国での需要減速の影響を従来よりも受けやすくなっていると言える。
- さらに、海外経済の減速が内需に波及すると、当県の生産活動・景気への広範な下押し圧力となりうる。国内企業の設備投資抑制のほか、荷動きの低下やビジネスホテル利用者の減少による運送業・観光業といったサービス業への影響も考えられる。

(図表18)大分県の輸出に占める素材・加工製品の比率



(図表19)大分県の加工製品の輸出先比率



(資料)財務省「貿易統計」

結びに

当県の生産活動は、海外経済減速の影響を一部受けつつも、ウエイトの高い素材業種が牽引する形で、持ち直しの動きを続けていると評価できる。

ただし、先行き、①商品市況の悪化による価格面での下押し圧力、②加工業種の更なる悪化・回復の遅れ、③海外経済減速の内需への波及といったリスクが考えられる。

今後、海外経済の動向や、当県の生産活動が受ける影響について、より一層注視していく必要がある。

<当店のホームページのご案内>

(当店ホームページのトップページ)

<http://www3.boj.or.jp/oita/index.html>

(大分県内の景気動向)

<http://www3.boj.or.jp/oita/kohyo/geppou.html>

(短観)

<http://www3.boj.or.jp/oita/kohyo/tankan.html>

(特別調査レポートのご案内)

http://www3.boj.or.jp/oita/kohyo/tokubetu_repo.html

(支店見学のご案内)

http://www3.boj.or.jp/oita/tennai_kengaku/kenngaku_annai.html

<当店の特別調査レポートのご案内>

<WEB上でご覧になっている方は、下記レポートのタイトルをクリックするとそのレポートを閲覧することができます>

- [大分県の輸出構造と最近の動き](#) (19年11月1日公表)
- [大分県の企業立地](#) (19年10月25日公表)
- [大分県のインバウンド動向 —世界的スポーツイベントの開催を前に—](#) (19年7月31日公表)
- [大分県の地価動向](#) (19年6月21日公表)
- [大分県のインターネット消費](#) (19年4月1日公表)
- [大分県の人口減少の緩和に向けて](#) (18年11月28日公表)
- [大分県内のキャッシュレス決済に関する現状整理](#) (18年10月25日公表)
- [観光消費の促進に向けた着眼点](#) (18年10月11日公表)
- [成長力強化が期待される大分県の農業](#) (18年6月19日公表)
- [イノベーションを捉え始めた県内製造業](#) (18年4月2日公表)
- [民泊の本格解禁に向けた県内の動き](#) (18年2月21日公表)
- [事業承継は県内企業の飛躍のチャンス](#) (18年1月24日公表)
- [収益力強化に向けた設備投資の一手](#) (17年11月22日公表)
- [平成29年台風第18号による大分県経済への影響と今後の見通し](#) (17年10月18日公表)
- [付加価値拡大に向けた県内企業の取り組み](#) (17年9月14日公表)
- [平成29年7月九州北部豪雨による大分県経済への影響と今後の見通し](#) (17年8月23日公表)